



# AutoSupportの詳細

## ONTAP 9

NetApp  
January 23, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/ontap/system-admin/manage-autosupport-concept.html> on January 23, 2026. Always check [docs.netapp.com](https://docs.netapp.com) for the latest.

# 目次

AutoSupportの詳細	1
ONTAP AutoSupportについて学ぶ	1
Digital AdvisorとONTAP AutoSupportについて学ぶ	1
ONTAP AutoSupportメッセージがいつどこに送信されるかを知る	2
イベントトリガー型メッセージ	2
定期的なメッセージ	3
手動トリガー型メッセージ	3
テクニカル サポートによるトリガー型メッセージ	5
ONTAP AutoSupportイベントトリガーメッセージについて学ぶ	6
ONTAP AutoSupportメッセージのタイプとその内容	7
ONTAP AutoSupportサブシステムを表示	9
ONTAP AutoSupportのサイズと時間の予算について学ぶ	9
イベントトリガーのONTAP AutoSupportメッセージで送信されるファイルについて学習します。	10
AutoSupportメッセージで送信されるログ ファイル	10
週単位のAutoSupportメッセージで送信されるファイル	11
ONTAP AutoSupport	11
OnDemandがテクニカルサポートから配信指示を取得する方法について説明します	
Eメールで送信されるONTAP AutoSupportメッセージの構造について説明します	13
Subject	13
本文	13
添付ファイル	13
ONTAP AutoSupport重大度タイプについて学ぶ	13
ONTAP AutoSupportメッセージの説明を取得する	14
ONTAP AutoSupport を管理するためのコマンド	14
AutoSupportを設定する	14
AutoSupportの設定に関する情報を表示する	15
過去のAutoSupportメッセージに関する情報を表示する	15
AutoSupportメッセージを送信、再送信、またはキャンセルする	15
ONTAP AutoSupportマニフェストに含まれる情報について	16

# AutoSupportの詳細

## ONTAP AutoSupportについて学ぶ

AutoSupportは、システムの健全性をプロアクティブに監視し、NetAppテクニカル サポート、社内のサポート部門、およびサポート パートナーにメッセージを自動的に送信します。テクニカル サポートへのAutoSupportメッセージの送信はデフォルトで有効になりますが、メッセージを社内のサポート部門に送信する場合は、適切なオプションを設定し、有効なメール ホストを指定する必要があります。

AutoSupportを管理できるのはクラスタ管理者だけです。Storage Virtual Machine (SVM) 管理者がAutoSupportにアクセスすることはできません。

AutoSupportは、ストレージ システムの初回設定時に、デフォルトで有効になります。AutoSupportは、AutoSupportが有効化されてから24時間後にテクニカル サポートへのメッセージ送信を開始します。この間隔を24時間よりも短くするには、システムをアップグレードまたはリバートするか、AutoSupport設定を変更するか、システムの時間を24時間周期以外に変更します。

 AutoSupportはいつでも無効にできますが、常に有効にしておく必要があります。AutoSupportを有効にしておくと、ストレージ システムで問題が発生したときに、迅速に原因を突き止めて解決できます。AutoSupportの情報は、AutoSupportを無効にしても、デフォルトで収集されてローカルに格納されます。

AutoSupportの詳細については、NetApp サポート サイトを参照してください。

### 関連情報

- ["NetAppサポート"](#)
- ["ONTAPコマンド リファレンス"](#)

## Digital AdvisorとONTAP AutoSupportについて学ぶ

ONTAPのAutoSupportコンポーネントは、計測データを収集して分析用に送信します。Digital Advisorは、AutoSupportから送信されたデータを分析し、プロアクティブなサポートと最適化を提供します。Digital Advisorは人工知能を使用して潜在的な問題を特定し、業務に影響が及ぶ前に解決できるように支援します。

Digital Advisorはクラウドベースのポータルとモバイル アプリで構成されます。実用的な予測分析とプロアクティブなサポートを提供することで、グローバル ハイブリッド クラウド全体でのデータ インフラの最適化を実現します。NetAppと有効なSupportEdge契約を締結しているお客様であれば、Digital Advisorからデータ主体の分析情報と推奨事項を受け取ることができます（機能は製品およびサポート レベルによって異なります）。

以下は、Digital Advisorで実行できる機能の一例です。

- アップグレードを計画する。Digital Advisorは新しいバージョンのONTAPにアップグレードすることで解決できる環境内の問題を特定し、Upgrade Advisorがアップグレードの計画を支援します。
- システムの健全性を表示する。Digital Advisorダッシュボードに健全性に関する問題が報告され、問題の

解決方法が提示されます。ストレージ スペースが不足しないようにシステム容量を監視できます。システムのサポート ケースが表示されます。

- ・パフォーマンスを管理する。Digital Advisorでは、System Managerよりも長期間にわたるシステム パフォーマンスが表示されます。パフォーマンスに影響を与える構成やシステムの問題を特定できます。
- ・効率を最大化する。ストレージ効率の指標を確認し、より多くのデータをより少ないスペースに格納する方法を特定できます。
- ・インベントリと構成を表示する。Digital Advisorでは、すべてのインベントリおよびソフトウェアとハードウェアの構成情報が表示されます。サービス契約の期限を確認し、サポートが中断されないようサービス契約を更新してください。

#### 関連情報

["NetApp ドキュメント : Digital Advisor"](#)

["Digital Advisor のリリース"](#)

["SupportEdge サービス"](#)

## ONTAP AutoSupport メッセージがいつどこに送信されるかを知る

AutoSupportは、メッセージの種類に応じて異なる宛先にメッセージを送信します。AutoSupportがメッセージを送信するタイミングと場所を知ると、Eメールで受信するメッセージまたはDigital Advisor Webサイトに表示されるメッセージを把握するのに役立ちます。

特に指定がない限り、次の表の設定は `system node autosupport modify` コマンドのパラメータです。

### イベントトリガー型メッセージ

修正措置を必要とするシステムでイベントが発生した場合には、AutoSupportからイベントトリガー型メッセージが自動的に送信されます。

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
AutoSupportがEMSのトリガー イベントに応答したとき	<p>`-to` および `noteto` で指定されたアドレス。（サービスに影響する重大なイベントのみが送信されます。）</p>
	<p>`-partner-address` で指定されたアドレス</p> <p>テクニカルサポート（`-support` が `enable` に設定されている場合）</p>

## 定期的なメッセージ

AutoSupportはいくつかのメッセージを定期的に自動送信します。

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
毎日（デフォルトでは、午前12:00から午前1:00の間にログメッセージとして送信されます）	<p>`-partner-address`で指定されたアドレス</p> <p>テクニカルサポート（`-support`が`enable`に設定されている場合）</p>
毎日（デフォルトでは、午前12:00から午前1:00の間にパフォーマンスマッセージとして送信されます） `-perf`パラメータが`true`に設定されている場合	<p>-partner-address で指定されたアドレス</p> <p>テクニカルサポート（`-support`が`enable`に設定されている場合）</p>
毎週（デフォルトでは日曜日の午前12:00から午前1:00の間に送信されます）	<p>`-partner-address`で指定されたアドレス</p> <p>テクニカルサポート（`-support`が`enable`に設定されている場合）</p>

## 手動トリガー型メッセージ

AutoSupportメッセージは手動で送信または再送信できます。

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
<p>`system node autosupport invoke`コマンドを使用して手動でメッセージを開始します</p>	<p>`system node autosupport invoke`コマンドの`-uri`パラメータを使用してURIを指定すると、メッセージはそのURIに送信されます。</p> <p>`-uri`が省略されている場合、メッセージは`-to`および`-partner-address`で指定されたアドレスに送信されます。`-support`が`enable`に設定されている場合、メッセージはテクニカルサポートにも送信されます。</p>

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
<pre>`system node autosupport invoke-core-upload`コマンドを使用して手動でメッセージを開始します</pre>	<p>`system node autosupport invoke-core-upload`コマンドの`-uri`パラメータを使用してURIを指定すると、メッセージはそのURIに送信され、コアダンプ ファイルがURIにアップロードされます。</p>
	<p>`-uri`を`system node autosupport invoke-core-upload`コマンドで省略すると、メッセージはテクニカル サポートに送信され、コアダンプ ファイルがテクニカル サポートサイトにアップロードされます。</p> <p>どちらのシナリオでも`-support`が`enable`に設定され、`-transport`が`https`または`http`に設定されている必要があります。</p> <p>コアダンプ ファイルのサイズが大きいため、`-to`および`-partner-addresses`パラメータで指定されたアドレスにメッセージは送信されません。</p>

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
<pre>`system node autosupport invoke-performance-archive`コマンドを使用して手動でメッセージを開始します</pre>	<p>`system node autosupport invoke-performance-archive`コマンドの`-uri`パラメータを使用してURIを指定すると、そのURIにメッセージが送信され、パフォーマンス アーカイブ ファイルがそのURIにアップロードされます。</p>
<pre>`system node autosupport invoke-performance-archive`で`-uri`が省略されている場合、メッセージはテクニカルサポートに送信され、パフォーマンスアーカイブ ファイルがテクニカル サポートサイトにアップロードされます。</pre>	<p>どちらのシナリオでも`-support`が`enable`に設定され、`-transport`が`https`または`http`に設定されている必要があります。</p> <p>パフォーマンス アーカイブ ファイルのサイズが大きいため、メッセージは`-to`および`-partner-addresses`パラメータで指定されたアドレスには送信されません。</p>
<pre>`system node autosupport history retransmit`コマンドを使用して過去のメッセージを手動で再送信します</pre>	<pre>`system node autosupport history retransmit`コマンドの`-uri`パラメータで指定したURIのみ</pre>

## テクニカル サポートによるトリガー型メッセージ

テクニカル サポートは、AutoSupport OnDemand機能を使用してAutoSupportからのメッセージを要求できます。

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
<p>新規AutoSupportメッセージの生成の送信指示をAutoSupportが取得したとき</p>	<p>`-partner-address`で指定されたアドレス</p> <p>テクニカルサポート、`-support`が`enable`に設定され、`-transport`が`https`に設定されている場合</p>

メッセージが送信されると	メッセージが送信される場所
過去のAutoSupportメッセージの再送信の送信指示をAutoSupportが取得したとき	テクニカルサポート、`-support`が`enable`に設定され、`-transport`が`https`に設定されている場合
コアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルをアップロードする新規AutoSupportメッセージの生成の送信指示をAutoSupportが取得したとき	<p>`-support`が`enable`に設定され、`-transport`が`https`に設定されている場合、テクニカルサポートが提供されます。コアダンプまたはパフォーマンスアーカイブファイルはテクニカルサポートサイトにアップロードされます。</p>

## ONTAP AutoSupportイベントトリガーメッセージについて学ぶ

AutoSupportは、EMSがトリガーイベントを処理すると、イベントトリガーAutoSupportメッセージを作成します。イベントトリガーAutoSupportメッセージは、修正措置が必要な問題を受信者に警告し、問題に関連する情報のみを格納します。メッセージに含めるコンテンツと受信者はカスタマイズできます。

AutoSupportは、次のプロセスを使用してイベントトリガー型AutoSupportメッセージを作成し、送信します。

1. EMSがトリガーイベントを処理すると、EMSからAutoSupportに要求が送信されます。

トリガーイベントは、AutoSupport宛先と`callhome`プレフィックスで始まる名前を持つEMSイベントです。

2. AutoSupportは、イベントトリガーAutoSupportメッセージを作成します。

AutoSupportは、トリガーに関連付けられたサブシステムから基本的な情報とトラブルシューティング情報を収集し、トリガーイベントに関連する情報のみが含まれたメッセージを作成します。

各トリガーには、デフォルトのサブシステムセットが関連付けられています。ただし、`system node autosupport trigger modify`コマンドを使用して、トリガーに追加のサブシステムを関連付けることもできます。

3. AutoSupportは、`system node autosupport modify`コマンドで`-to`、`-noteto`、`-partner`、`-address`、および`-support`パラメータを使用して定義された受信者に、イベントトリガーAutoSupportメッセージを送信します。

AutoSupportメッセージの配信を特定のトリガーに対して有効または無効にするには、`system node autosupport trigger modify`コマンドに`-to`および`-noteto`パラメータを指定して使用します。

## 特定のイベントに関して送信されるデータの例

`storage shelf PSU failed`EMSイベントは、必須、ログファイル、ストレージ、RAID、HA、プラットフォーム、およびネットワークサブシステムからの基本データと、必須、ログファイル、およびストレージサブシステムからのトラブルシューティングデータを含むメッセージをトリガーします。

今後の`storage shelf PSU failed`イベントへの応答として送信されるAutoSupportメッセージに、NFSに関するデータを含めることにしました。`callhome.shlf.ps.fault`イベントのNFSに関するトラブルシューティングレベルのデータを有効にするには、次のコマンドを入力します：

```
cluster1::\>
system node autosupport trigger modify -node node1 -autosupport
-message shlf.ps.fault -troubleshooting-additional nfs
```

`callhome.`プレフィックスは、`system node autosupport trigger`コマンドを使用する場合、またはCLIでAutoSupportおよびEMSイベントによって参照される場合、`callhome.shlf.ps.fault`イベントから削除されることに注意してください。

## ONTAP AutoSupportメッセージのタイプとその内容

AutoSupportメッセージには、サポートされているサブシステムに関するステータス情報が含まれています。AutoSupportメッセージの内容を把握しておくと、Eメールで受信したメッセージまたはDigital Advisor Webサイトに表示されたメッセージを解釈したり、応答したりするときに役立ちます。

メッセージのタイプ	メッセージに含まれるデータのタイプ
イベントトリガー型	イベントが発生した特定のサブシステムについての状況に応じたデータが含まれるファイル
日次	ログ ファイル
パフォーマンス	過去24時間以内にサンプリングされたパフォーマンス データ
週次	設定データおよびステータス データ

メッセージのタイプ	メッセージに含まれるデータのタイプ
<pre data-bbox="163 190 587 264">'system node autosupport invoke`コマンドによって起動</pre>	<p data-bbox="848 190 1436 295">'-' type`パラメータで指定された値によって異なります：</p>
	<ul data-bbox="832 369 1468 897" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="832 369 1468 432">'test`は、いくつかの基本データを含むユーザートリガーメッセージを送信します。</li> <li data-bbox="832 475 1468 644">このメッセージは、-to オプションを使用して、指定された電子メール アドレスにテクニカル サポートから自動電子メール応答を送信することもトリガーするため、AutoSupport メッセージが受信されていることを確認できます。</li> <li data-bbox="832 686 1468 749">'performance`パフォーマンス データを送信します。</li> <li data-bbox="832 792 1468 897">'all`各サブシステムからのトラブルシューティング データを含む、週次メッセージと同様の完全なデータ セットを持つ、ユーザがトリガするメッセージを送信します。</li> </ul> <p data-bbox="848 939 1468 1003">一般に、テクニカル サポートからはこのメッセージが要求されます。</p>
<pre data-bbox="163 1098 718 1172">'system node autosupport invoke- core-upload`コマンドによって起動</pre>	<p data-bbox="824 1066 1199 1098">ノードのコア ダンプ ファイル</p>
<pre data-bbox="163 1288 718 1404">'system node autosupport invoke- performance- archive`コマンドによって起動</pre>	<p data-bbox="824 1256 1476 1320">指定された期間のパフォーマンス アーカイブ ファイル</p>

メッセージのタイプ	メッセージに含まれるデータのタイプ
AutoSupport OnDemandによるトリガー型	<p>AutoSupport OnDemandは、新しいメッセージや過去のメッセージを要求できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しいメッセージは、AutoSupportコレクションの種類に応じて <code>test</code>、<code>all</code>、または <code>'performance'</code> になります。</li> <li>過去のメッセージは、再送信するメッセージの種類によって異なります。</li> </ul> <p>AutoSupport OnDemandは、次のファイルをNetApp Support Siteにアップロードする新しいメッセージをリクエストできます <a href="https://mysupport.netapp.com">"mysupport.netapp.com"</a> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コア ダンプ</li> <li>パフォーマンス アーカイブ</li> </ul>

## ONTAP AutoSupportサブシステムを表示

各サブシステムは、AutoSupportがメッセージに使用する基本情報とトラブルシューティング情報を提供します。また、各サブシステムはトリガー イベントに関連付けられているため、AutoSupportはトリガー イベントに関連する情報のみをサブシステムから収集できます。

AutoSupportは状況に応じたコンテンツを収集します。

手順

- サブシステムとトリガー イベントに関する情報を表示します。

```
system node autosupport trigger show
```

## ONTAP AutoSupportのサイズと時間の予算について学ぶ

AutoSupportは、サブシステム別に情報を収集し、各サブシステムのコンテンツにサイズ割当量と時間割当量を適用します。AutoSupportの割当量により、ストレージシステムの拡張に合わせてAutoSupportのペイロードが制御され、拡張性の高いAutoSupportデータの配信が可能になります。

サブシステムのコンテンツがサイズ割当量または時間割当量を超えた場合、AutoSupportは情報の収集を停止し、AutoSupportのコンテンツを切り捨てます。コンテンツを切り捨てるのが容易ではない場合（バイナリファイルなど）、AutoSupportはそのコンテンツを除外します。

デフォルトのサイズと時間予算は、NetApp サポートから指示された場合にのみ変更してください。サブシステムのデフォルトのサイズと時間予算は、`autosupport manifest show` コマンドを使用して確認するこ

ともできます。

## イベントトリガーのONTAP AutoSupportメッセージで送信されるファイルについて学習します。

イベントトリガー型AutoSupportメッセージには、AutoSupportがメッセージを作成する原因となったイベントに関連付けられたサブシステムからの基本情報とトラブルシューティング情報のみが含まれています。これらのデータは、NetAppサポートおよびサポートパートナーによる問題のトラブルシューティングに役立ちます。

AutoSupportでは、次の基準を使用してイベントトリガー型AutoSupportメッセージの内容が制御されます。

- ・含まれているサブシステム

データは、ログ ファイルなどの共通サブシステムやRAIDなどの特定のサブシステムなど、サブシステム別にグループ化されます。各イベントがトリガーするメッセージには、特定のサブシステムからのデータのみが含まれています。

- ・含まれている各サブシステムの詳細レベル

含まれている各サブシステムのデータは、基本レベルまたはトラブルシューティング レベルで提供されます。

```
'-instance`パラメータを指定した `system node autosupport trigger show`コマンドを使用すると、すべての可能性のあるイベントを表示し、各イベントに関するメッセージに含まれるサブシステムを特定できます。
```

各イベントにデフォルトで含まれるサブシステムに加えて、`system node autosupport trigger modify`コマンドを使用して、基本レベルまたはトラブルシューティングレベルで追加のサブシステムを追加できます。

## AutoSupportメッセージで送信されるログ ファイル

AutoSupportメッセージには、NetAppのテクニカル サポート担当者が最近のシステム アクティビティを確認できる、複数の主要ログ ファイルを含めることができます。

ログ ファイル サブシステムが有効になっている場合、すべての種類のAutoSupportメッセージに次のログ ファイルが含まれる可能性があります：

ログ ファイル	ファイルから含まれるデータの量
<ul style="list-style-type: none"><li>・`/mroot/etc/log/mlog/` ディレクトリからのログファイル</li><li>・MESSAGESログ ファイル</li></ul>	<p>最後のAutoSupportメッセージ以降にログに追加された新しい行のみ（指定された最大行数まで）。これにより、重複しない一意の関連データがAutoSupportメッセージに追加されるようになります。</p> <p>（パートナーからのログファイルは例外で、送信可能な上限までデータが追加されます。）</p>

ログ ファイル	ファイルから含まれるデータの量
• `/mroot/etc/log/shelflog/` ディレクトリからのログ ファイル	新しい順に、指定された最大行数までのデータ
• `/mroot/etc/log/acp/` ディレクトリからのログ ファイル	
• Event Management System (EMS) のログデータ	

AutoSupportメッセージの内容は、ONTAPのリリース間で変更される可能性があります。

## 週単位のAutoSupportメッセージで送信されるファイル

週単位のAutoSupportメッセージには、追加の設定データとステータス データが含まれており、システムの経時的な変化を追跡するのに役立ちます。

週単位のAutoSupportメッセージで送信される情報は次のとおりです。

- ・各サブシステムに関する基本情報
- ・選択した `/mroot/etc` ディレクトリファイルの内容
- ・ログ ファイル
- ・システム情報を提供するコマンドの出力
- ・レプリケートされたデータベース (RDB) の情報やサービス統計などの追加情報

## ONTAP AutoSupport OnDemandがテクニカルサポートから配信指示を取得する方法について説明します

AutoSupport OnDemandは、定期的にテクニカル サポートとの通信を行って、AutoSupportメッセージの処理（送信、再送信、または拒否）および大容量ファイルのNetApp サポート サイトへのアップロードに関する送信指示を受け取ります。AutoSupport OnDemandを使用すると、週次のAutoSupportジョブの実行を待たずにAutoSupportメッセージをオンデマンドで送信できます。

AutoSupport OnDemandは次のコンポーネントで構成されています。

- ・各ノードで稼働するAutoSupport OnDemandクライアント
- ・テクニカル サポートで稼働するAutoSupport OnDemandサービス

AutoSupport OnDemandクライアントは、AutoSupport OnDemandサービスを定期的にポーリングし、テクニカル サポートから送信指示を取得します。たとえば、テクニカル サポートは、AutoSupport OnDemandサービスを使用して、新しいAutoSupportメッセージを生成するよう要求できます。AutoSupport OnDemandクライアントはAutoSupport OnDemandサービスをポーリングして、送信指示を取得し、要求に応じて新しいAutoSupportメッセージをオンデマンドで送信します。

AutoSupport OnDemandは、デフォルトで有効になっています。ただし、AutoSupport OnDemandがテクニカ

ル サポートとの通信を継続するかどうかは、いくつかのAutoSupport設定によって決まります。次の要件を満たしている場合、AutoSupport OnDemandはテクニカル サポートと自動的に通信を行います。

- AutoSupportが有効になっている。
- テクニカル サポートにメッセージを送信するようにAutoSupportが設定されている。
- HTTPS転送プロトコルを使用するようにAutoSupportが設定されている。

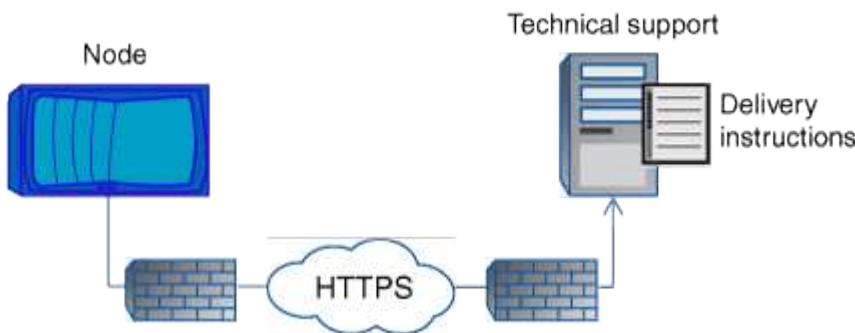
AutoSupport OnDemandクライアントは、AutoSupportメッセージの送信先と同じ場所のテクニカル サポートにHTTPS要求を送信します。AutoSupport OnDemandクライアントは、着信接続は受け入れません。



AutoSupport OnDemandは、テクニカルサポートと通信するために「autosupport」ユーザー アカウントを使用します。ONTAPはこのアカウントの削除を防止します。

AutoSupport OnDemandを無効にして、AutoSupportを有効のままにしたい場合は、コマンド `system node autosupport modify -ondemand-state disable`を使用します。`system node autosupport modify -ondemand-state disable`の詳細については、["ONTAPコマンド リファレンス"](#)を参照してください。

AutoSupport OnDemandがテクニカル サポートにHTTPS要求を送って送信指示を取得する処理を図式化すると次のようになります。



配送指示には、AutoSupport が次のことを行うためのリクエストを含めることができます：

- 新規のAutoSupportメッセージの生成

テクニカル サポートからは、問題の優先度を選別できるように、新たなAutoSupportメッセージが要求されることがあります。

- コア ダンプ ファイルまたはパフォーマンス アーカイブ ファイルをNetApp サポート サイトにアップロードする新規のAutoSupportメッセージの生成

問題の優先度を選別できるように、テクニカル サポートからコア ダンプ ファイルまたはパフォーマンス アーカイブ ファイルを要求されることがあります。

- 以前に生成したAutoSupportメッセージの再送信

この要求は、あるメッセージが配信失敗などの理由で受信されなかった場合に、自動的に出されます。

- 特定のトリガー イベントに対するAutoSupportメッセージ送信の無効化

テクニカル サポートは、使用されていないデータの送信を無効にすることができます。

# Eメールで送信されるONTAP AutoSupportメッセージの構造について説明します

AutoSupport メッセージが電子メールで送信されると、メッセージには標準の件名、短い本文、およびデータを含む 7z ファイル形式の大きな添付ファイルが含まれます。



AutoSupportがプライベートデータを非表示にするように設定されている場合、ヘッダー、件名、本文、添付ファイルでホスト名などの特定の情報が省略またはマスクされます。

## Subject

AutoSupportメカニズムによって送信されるメッセージの件名には、通知の理由を示すテキスト文字列が含まれます。件名の形式は次のとおりです：

*System\_Name* からの HA グループ通知 (Message) Severity

- *\_System\_Name\_* は、AutoSupport設定に応じてホスト名またはシステムIDのいずれかになります。

## 本文

AutoSupportメッセージの本文には次の情報が含まれます：

- メッセージの日付と時間
- メッセージを生成したノード上のONTAPのバージョン
- メッセージを生成したノードのシステムID、シリアル番号、およびホスト名
- AutoSupportシーケンス番号
- SNMP 連絡先名と場所 (指定されている場合)
- HAパートナーノードのシステムIDとホスト名

## 添付ファイル

AutoSupportメッセージ内の重要な情報は、`body.7z` という7zファイルに圧縮され、メッセージに添付されたファイルに含まれています。

添付ファイルに含まれるファイルは、AutoSupport メッセージの種類に固有です。

## ONTAP AutoSupport重大度タイプについて学ぶ

AutoSupportメッセージには、各メッセージの目的を示す重大度のタイプがあります。これにより、たとえば、すぐに対処する必要がある緊急の問題を示すメッセージなのか、情報提供のみを目的としたメッセージなのかを判断できます。

メッセージの重大度は次のいずれかになります：

- アラート：アラート メッセージは、何らかのアクションを取らないと、次のレベルのイベントが発生する可能性があることを示します。

警告メッセージに対して24時間以内にアクションを実行する必要があります。

- ・緊急：障害が発生すると緊急メッセージが表示されます。

緊急メッセージに対しては直ちに対処する必要があります。

- ・エラー：エラー状態は、無視した場合に何が起こるかを示します。
- ・Notice：正常だが重大な状態です。
- ・Info：情報メッセージには問題の詳細が記載されていますが、無視しても構いません。
- ・Debug：Debugレベルのメッセージは、実行する必要がある手順を示します。

社内のサポート組織が電子メールでAutoSupportメッセージを受信する場合、重大度は電子メールメッセージの件名に表示されます。

## ONTAP AutoSupportメッセージの説明を取得する

受信したAutoSupportメッセージの説明を確認するには、ONTAP Syslog Translatorを使用します。

手順

1. ["Syslog Translator" Syslog Translator](#)に移動します。
2. リリースフィールドに、使用しているONTAPのバージョンを入力します。検索文字列フィールドに「callhome」と入力します。\*翻訳\*を選択します。
3. Syslog Translatorに、入力したメッセージの文字列に一致するすべてのイベントがアルファベット順に表示されます。

## ONTAP AutoSupport を管理するためのコマンド

``system node autosupport`` コマンドを使用して、AutoSupport構成の変更や表示、以前のAutoSupportメッセージに関する情報の表示、AutoSupportメッセージの送信、再送信、またはキャンセルを行うことができます。

### AutoSupportを設定する

状況	使用するコマンド
AutoSupportメッセージを送信するかどうかを制御する	<code>system node autosupport modify</code> と <code>-state</code> パラメータ
AutoSupportメッセージがテクニカルサポートに送信されるかどうかを制御する	<code>system node autosupport modify</code> と <code>-support</code> パラメータ
AutoSupportをセットアップするか、AutoSupportの設定を変更する	<code>system node autosupport modify</code>

状況	使用するコマンド
個々のトリガー イベントについて、AutoSupportメッセージを社内のサポート部門に送信するかどうかを指定する。また、各トリガー イベントで送信されるメッセージに含める追加のサブシステム レポートを指定する	system node autosupport trigger modify

## AutoSupportの設定に関する情報を表示する

状況	使用するコマンド
AutoSupportの設定を表示する	system node autosupport show と `--node` パラメータ
AutoSupportメッセージを受信するすべてのアドレスとURLの概要を表示する	system node autosupport destinations show
個々のトリガー イベントについて社内のサポート部門に送信されるAutoSupportメッセージを表示する	system node autosupport trigger show
AutoSupportの設定およびさまざまな宛先への配信のステータスを表示する	system node autosupport check show
AutoSupportの設定およびさまざまな宛先への配信の詳細なステータスを表示する	system node autosupport check show-details

## 過去のAutoSupportメッセージに関する情報を表示する

状況	使用するコマンド
過去50件のうち、1つ以上のAutoSupportメッセージに関する情報を表示する	system node autosupport history show
テクニカル サポート サイトまたは指定のURIにコアダンプ ファイルまたはパフォーマンス アーカイブ ファイルをアップロードするために生成された最新のAutoSupportメッセージに関する情報を表示する	system node autosupport history show-upload-details
AutoSupportメッセージ内の情報を表示する。メッセージ用に収集された各ファイルの名前とサイズのほか、エラーがある場合はその情報も含まれる	system node autosupport manifest show

## AutoSupportメッセージを送信、再送信、またはキャンセルする

状況	使用するコマンド
ローカルに保存されていて、そのAutoSupportシークエンス番号で特定されるAutoSupportメッセージを再転送する	system node autosupport history retransmit
<p> AutoSupportメッセージを再転送し、サポート部門がすでにそのメッセージを受信している場合、サポートシステムは重複するケースを作成しません。一方、サポート部門がそのメッセージを受信しなかった場合には、AutoSupportシステムはメッセージを分析し、必要に応じてケースを作成します。</p>	
テスト目的などでAutoSupportメッセージを生成し送信する	system node autosupport invoke   '-force`パラメータを使用して、AutoSupportが無効になっている場合でもメッセージを送信します。`-uri` パラメータを使用して、設定された送信先ではなく、指定した送信先にメッセージを送信します。
AutoSupportメッセージをキャンセルする	system node autosupport history cancel

`system node autosupport`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=system+node+autosupport>["ONTAPコマンドリファレンス"]をご覧ください。

#### 関連情報

["ONTAPコマンド リファレンス"](#)

## ONTAP AutoSupportマニフェストに含まれる情報について

AutoSupportマニフェストには、AutoSupportメッセージごとに収集されたファイルの詳細が表示されます。AutoSupportマニフェストには、AutoSupportが必要なファイルを収集できなかった場合の収集エラーに関する情報も含まれます。

AutoSupportマニフェストには、以下の情報が含まれます。

- AutoSupportメッセージのシークエンス番号
- AutoSupportがAutoSupportメッセージに添付したファイル
- 各ファイルのバイト単位のサイズ

- AutoSupportマニフェストの収集ステータス
- AutoSupportが1つ以上のファイルの収集に失敗した場合のエラーの説明

AutoSupportマニフェストは、`system node autosupport manifest show` コマンドを使用して表示できます。

AutoSupportマニフェストは、個々のAutoSupportメッセージに含まれ、XML形式で表示されます。つまり、一般的なXMLビューアを使用して読んだり、Digital Advisorポータルを使用して表示したりできます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。